

第 22 章 旭川医科大学病院 受託実習生および研修生等の感染に関わる基本方針

1. 基本的な考え方

旭川医科大学病院は、北海道において中核となる特定機能病院であり、地域に根ざした良質で安全な医療機能を展開する施設である。

先進医療を実践する急性期医療環境は易感染性の患者も多く、院内感染が安全管理上の重要なリスク要因となるため、患者、職員、面会者に対して院内感染を制御することは重要な責務である。院内感染の制御は、旭川医科大学病院に従事する職員一人一人が院内感染の予防を重要課題と認識し取り組むこと、また病院各部および組織全体として院内感染対策に取り組むものであり、実習生も職員と同様の対策を求めるものである。

2. 抗体価検査とワクチン接種

(1) 対象者

旭川医科大学病院で患者に接する実習生・研修生および指導者

ただし、旭川医科大学病院研修生受入れ規程 第 3 条により研修内容において患者と近接することがない場合等で、病院長が医療安全上特に問題ないと判断した場合に限り、健康診断書の添付を省略することができる。

(2) 抗体検査の種類とワクチン接種

- ① 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎について 1 歳以上で 2 回のワクチン接種歴または EIA 法による抗体検査の結果、各基準値を満たすことを確認する（基準値は下記表 1 の通り）。基準に満たない場合はワクチンを接種する。

【参考：4 疾患感染症のフローチャート（日本環境感染学会「医療従事者のためのワクチンガイドライン」第 3 版より）】

▶抗体価と必要ワクチン接種回数（表 1）

	(ア)強陽性 (ワクチン接種不要)	(イ)弱陽性 (あと 1 回のワクチン 接種が必要)	(ウ)陰性 (あと 2 回のワクチン 接種が必要)
麻疹	16.0 以上	2.0 以上 16.0 未満	2.0 未満
風疹	8.0 以上	2.0 以上 8.0 未満	2.0 未満
水痘	4.0 以上	2.0 以上 4.0 未満	2.0 未満
流行性耳下腺炎	4.0 以上	2.0 以上 4.0 未満	2.0 未満

- ② B 型肝炎については実習内容により、抗体を獲得していることが望ましいが、任意とする。
- ③ インフルエンザ流行期（12 月～4 月）に実習する場合はワクチンを実習開始 2 週間前には接種していること。
- ④ ワクチン接種ができない場合の免除申告については、別紙「ワクチン接種の免除申告書」を使用し、医療機関がワクチン接種不適合者であることを証明することで免除扱いとする。

3. 結核

実習開始1年以内に胸部エックス線写真等で異常がないことを確認できること。

4. 証明書の提出

所属施設長名(校医も可)で別紙の調査票及び各個人の予防接種を証明するものを提出すること。

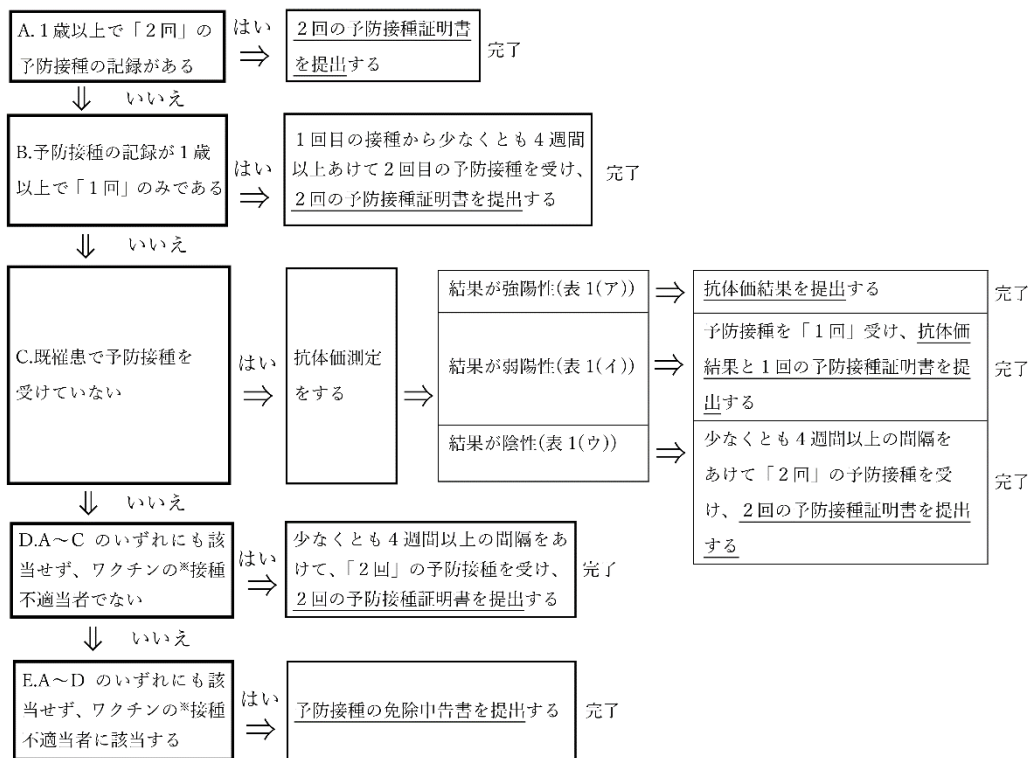
5. 実習中の感染対策

(1) 旭川医科大学病院の院内感染対策マニュアルに従って実習する。

(2) 発熱・咳嗽・鼻汁・倦怠感・皮疹・下痢などの感染性疾患が疑われる場合は教員・指導者に相談し、欠席などの対応を考慮すること。

【参考：4疾患感染症のフローチャート】

※A から進んでください。



※ワクチンの接種不適当者（「免疫疾患やアレルギー、治療中の病気のためのワクチン接種ができない場合など」）

- (1) 明らかな発熱を呈している者（明らかな発熱とは通常 37.5 度以上をいう）
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- (3) ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者
- (4) 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者
- (5) 妊娠していることが明らかな者
- (6) 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

ワクチン接種不適当者（「免疫疾患やアレルギー、治療中の病気のためワクチン接種ができない場合など」）は、医療機関に「□」内の記入を依頼し、別紙「4疾患感染症及びB型肝炎に関する調査票」とともに提出願います。

ワクチン接種の免除申告書

旭川医科大学病院長 殿

申請日 西暦 年 月 日

所属施設名

氏 名

実習・研修部署

以下、担当医師記載欄とする

1. 該当ワクチンに○を付してください。

1. 麻疹 2. 風疹 3. 水痘 4. 流行性耳下腺炎 5. B型肝炎

2. 理 由

理由記入欄

記載日（西暦） 年 月 日

医療機関名

医 師 名 ⑩